

2025 年度 緑区自立支援連絡協議会 活動報告

1 活動の柱

1. 障害のある方の権利を守れる地域を作っていきます。

障害のある方の権利を守るために、虐待防止の観点から不適切な支援についての情報を行政、基幹センター、事業所等で共有することで適切な支援に切り替えられるための検討の場を作ります。

来年度の本格実施に向けて、今年度は事務局会議の中でケースの共有を行いながら取り組みます。

2. 地域の支援力アップの為に、ネットワークづくりに取り組みます。

- ① 部会活動を中心に、事業所同士の交流や、部会の枠を超えた横のつながりを作っていきます。
- ② 当事者参加、構成員のネットワークづくりを引き続き進め、当事者や家族、また事業所が孤立する事がないよう取り組みを進めます。
- ③ 障害分野以外の関係団体との連携や情報共有、ネットワークづくりに取り組みます。

3. 障害がある人もない人も、誰もが住みやすく、お互いに支えあえる街づくりに取り組みます

緑区民まつり（障害者と区民のつどい）の中で、障害のある方と区民の皆さんと一緒に参加できる企画を通じて障害理解が深まることを目的として、「第 14 回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい」を開催します。

2. 2025 年度 日程

	事務局会議・運営委員会他	内容
4月	事務局会議（10日）	
5月	運営委員会（30日）	個別避難計画作成モデル事業について 重層的支援体制整備事業の報告
6月	●全体会（26日）	活動報告、活動計画、決算予算 会長・副会長選任
7月	事務局会議（24日）	見守りネットワークの開催について
9月	運営委員会（3日）	見守りネットワークの説明
10月	事務局会議 見守りネットワーク（23日）	
	★第14回 障害のある人も ない人も共につくる緑区民の つどい(25日)	緑区区民まつり（障害者と区民のつどい）にて開 催
11月	運営委員会（27日）	各部会から集約した地域課題の報告、意見交換 つどい報告
1月	事務局会議 見守りネットワーク（15日）	
2月	運営委員会（26日）	・強度行動障害支援ニーズ把握に係るアンケート 結果から見える現状について ・名古屋市自立支援連絡会の報告
3月	南ブロック連絡会(3日)	・南ブロックの共通の地域課題の討議（障害者支 援課認定支払係、4区（緑・南・天白・瑞穂）の 区役所・支所・保健C・基幹C） ・各区から地域課題の文書を市に提出

- ・南ブロック会議・・・年6回（4月、6月、8月、10月、12月、2月）
- ・名古屋市自立支援連絡会 年3回 ①6月 ②12月 ③3月

全体会 年1回、活動報告、活動計画、課題交流を行っています。

事務局会議 運営委員会の議題の整理を行っています。

運営委員会 情報共有、協議会活動の推進、地域課題の集約と具体化を行っています。

2025 年度 児童関係 活動報告

障害のある子どもたちを支えるために連絡会、ネットワーク、不登校を考える会の3つの組織で構成しています。関係者、支援者の顔の見える関係を大切に、緑区の障害児に関わる地域課題を整理していきます。

運営委員会 4/17（木）、7/10（木）、9/11（木）、11/13（木）、1/22（木） 5回開催

◇放デイ・児童連絡会

目的：障害のある子どもたちを支える事業所の交流を行い、横のつながりを作る。市民向け企画の実施。

構成メンバー：放課後等デイサービス・児童発達支援事業所 他

6月13日（金）	地域療育センターの紹介 及び名刺交換会 講師 南部地域療育センターそよ風 山下氏 参加者 34 名	徳重支所
9月19日（金）	地域課題 みどりっこひろば打合せ 参加者 34 名	徳重支所
11月21日（金）	みどりっこひろば 参加者 32 名	緑区役所講堂
2月16日（金）	障害のある子どもたちの「はたらくための準備」参加者 29 名 講師：基幹センター 荒木	保健センター

◇障害児ネットワーク

目的：緑区における障害の子どもたちを支えるための課題を整理し、必要な資源を作る。

障害のある子どもの関係者のネットワークを作る。

構成メンバー：放課後等デイサービス、児童発達支援事業所、相談支援専門員、緑区福祉課

緑区民生子ども課 緑区保健センター 子ども応援委員会、緑区特別支援教育研究会顧問

エリア支援保育所 南部地域療育センターそよ風 緑児童館 メンタルクリニック

緑区障害者基幹相談支援センター

7月2日（水） 10：00～12：00	『医療的ケア児の支援、現状について』 参加者 20 名 講師：南部地域療育センターそよ風 近藤氏	保健センター 健康増進室
10月8日（水） 10：00～12：00	「子育てと親の思い」 参加者 21 名 講師：障害児サークル colorful clover 寺尾氏、小塚氏	保健センター 健康増進室
2月27日（金） 10：00～12：00	不登校を考える会実践報告 『緑児童館における平日日中の子どもの居場所づくりモデル事業について』 参加者 37 名 講師 緑児童館 館長 伊藤暁氏	保健センター 健康増進室

◇不登校を考える会

目的：緑区内の児童に関わる課題についての交流と、関係機関への働きかけ、資源開発。

交流会の1年の成果をネットワーク会議で報告し、緑区の不登校の現状を考える機会とする。

定例会 5/15（木）、7/23（木）、10/25（木）、2/4（木） 4回実施

◇緑区 教育・福祉連携キックオフ交流会

目的：小学校の先生方と、緑区内の放課後等デイサービスの皆さんが集まって、お互いの活動を紹介や意見交換し、交流の場を作り、学校と福祉のつながりを深める第一歩とする。

8/21 鳴海小学校、8/22 有松小学校

◇第1回 緑区医療的ケア児ネットワーク（仮）検討会 9/9

2025 年度 強行部会 活動報告

1. 活動方針と概要

2025 年度は、従来の「自閉症特性の理解と構造化」を主軸とした研修に加え、「事業所が抱え込まない体制づくり」を掲げ、新たに「事業所訪問」を開始しました。現場の実態把握と具体的な支援技術の普及を並行して行い、地域全体の支援力の底上げを図りました。

2. 運営委員会の開催状況

年間 5 回の運営委員会を開催し、部会運営の企画・評価および困難事例の検討を行いました。

- 開催日: 4/18, 7/11, 9/12, 11/14, 2/13
- 主な検討事項: 定例会の企画、事業所訪問の選定、困難事例の分散支援や人材育成の検討。また、6 月には「なるみ作業所」にて運営委員による事例検討会を実施しました。

3. 定例会・研修会の実績

計 3 回の定例会を開催し、幅広い領域の関係者が参加しました。特に第 1 回は過去最多の 84 名が参加し、会場を区役所講堂に変更するほどの反響がありました。

回	開催日	内容・テーマ	講師・報告者	参加者数
第 1 回	5/14	研修「自閉症支援がうまくいかない…最初にやることは？」	奥山 善仁(あいぼ)	84 名
第 2 回	10/17	実践報告「構造化を取り入れたことによる変化」	奥山 善仁(あいぼ)	31 名
第 3 回	1/16	事例検討会「冰山モデルで考えてみよう」	奥山 善仁(あいぼ)	46 名

(2025 年度 のべ人数 161 名)

※参考:2024 年度 151 名

4. 新たな取り組み:事業所訪問の成果

「研修を受けても自施設での導入が難しい」という課題に対し、運営委員 4 名が直接現場に出向く活動を開始しました。

- 訪問実績: 生活介護ココロに訪問(12/4)。
- 内容: 現場環境のアセスメントと構造化のアドバイスを実施。
- 成果と課題: 構造化への職員の意識向上。事業所からは、全職員が意識出来るような視覚的ツール(マニュアル)のようなものがあるとなおありがたいとの意見をいただく。

5. 活動の総括と今後の課題

- 成果: 定例会の参加層が、行政、療育センター、養護学校など幅広い領域に拡大しました。また、言葉に頼る支援(口うるさい指導)の限界を冰山モデル等の活用により再認識し、「環境調整(構造化)」の重要性が地域に浸透しつつあります。
- 課題: 研修参加後の「具体的な行動」への結びつきがまだ弱く、定着率を高めるための継続的なコーチングやフォローアップ体制の構築が不可欠です。

2025 年度 自立支援連絡協議会相談部会 活動報告

【活動の概要】

- ・ 初任・現任インターバル実習を通じた、区単位での OJT の推進
- ・ 事例検討会等、複数のツールを用いた相談支援事業所相互の学び合いの場とする
- ・ 個々の事例から地域課題の抽出と共有、解決を協議する
- ・ 高齢分野（ケアマネサロン）や児童分野、重層的支援体制等他分野の課題を学び議論する機会
- ・ 事業所間の連携と交流

全て 10:00～12:00	内容	場所
4 月 22 日（火） 31 名	新年度の体制等事業所から近況報告（実地指導などの報告も）、名古屋市集団指導等	徳重支所第 1 第 2 会議室
5 月 27 日（火） 15 名	振り返り参加型スーパービジョン	緑区役所第 2 会議室
6 月 19 日（木） 21 名	木全先生の講義	オンライン（Zoom）
7 月	8 月に振り替えのため、休会	
8 月 6 日（水） 24 名	現任研修インターバル実習 （グループスーパービジョン）	緑保健センター 2 階健康増進室
9 月 30（火） 22 名	地域課題について 1	緑区役所第 2 会議室
1 0 月 28 日（火） 20 名	ケアマネサロン	緑区役所講堂
1 1 月 2 0 日（木） 28 名	①南部地域療育センターそよ風 説明会 ②地域課題について 2	徳重支所 第 1 第 2 会議室
12 月 18 日（木） 25 名 1 2 月 2 2 日（月）	重層的支援体制整備事業の現在地 そよ風見学会	緑区役所第 2 会議室
1 月 2 9 日（木） 23 名	・ 今年度の協議会活動についての報告 ・ 交流会	緑保健センター 2 階健康増進室
2 月 27 日（金）	10-12 児童部会ネットワーク	緑保健センター 2 階健康増進室
3 月 17 日（火） 20 名	日本福祉大学 木全和巳先生をコーディネーターとして、事例検討会をグループワーク形式で深める	緑区役所第 2 会議室

構成員：

- 緑区の相談支援事業所および緑区の障害のある方の支援をしている相談支援事業所
- 行政機関 緑区役所福祉課、徳重支所区民福祉課、緑保健センター

2025 年度 日中居住事業所連絡会活動報告

1 重点課題

- (ア) 交流 事業所間の交流や連携、事業種別の交流を深める取り組みを進めます。
- (イ) 研修 事業所からの要望に基づき、学習・研修会を開催します。
- (ウ) 地域課題 地域の課題解決に取り組みます。

2 定例会

定例会	日にち	場所・参加者数	内容
第1回	7/16(水)	緑保健センター 30 事業所 34 名参加	① 日中居住連絡会「活動計画・年間計画」・協議会報告、諸連絡 ② 高齢障害者の生活を支える事業所からの報告 ・地域活動支援センターしかやま 中根氏 ・ぽぽホーム六条 三溝氏 ・ニコニコデイサービス鶴里 松浦氏 ③ グループワーク(交流会) ④ 名刺交換会(自由解散)
第2回	3/5(木)	緑保健センター 20 事業所 26 名参加	① 「就労選択支援 はじめの一步」 ② リタリコ野並 早川氏 制度説明+就労移行支援事業所報告 相談支援事業所カモミール 加藤氏 事例報告 ③ グループワーク+ワーク報告 ④ 諸連絡、年活動同報告

3 種別交流会

第1回 GH交 流会	8/21(木)	緑区区役所講堂 22事業所 31名参加	① 「どうする？どうやった？地域連携推進会議」 ② GH かざぐるま東風 春田氏 報告 GH ほっと家 松島氏、稲田氏 報告 ③ グループワーク
第2回 GH交 流会	1/20(火)	徳重支所第一第・ 二会議室 11 事業所15名	① 「人材育成」 ② 日本次世代育成支援協会 西村亜希子氏 講義 ③ グループワーク

○運営委員会(リモート開催): 5/21、6/18、10/22、11/21(中止)、3/18

○地域課題

- ① 高齢障害者の日中活動、グループホームでの課題
- ② 若年層(16~18歳)のグループホーム利用者への対応についての課題

4 その他 12/3(水)イオン大高「みどり福祉の店」(共催:福祉課・日中) 10 事業所参加

精神部会 2025 年度活動報告

【2025 年度の取り組み】

・2025 年度、定例会を 5 回開催した。2025 年度は「にも包括」を題材に精神保健福祉について改めて学ぶ 1 年とする予定で始めた。狙っていた通りの事が出来なかったが、多くの方に定例会に参加頂ける機会となった。

・企画講演会については今年度、精神部会の組織強化の為に定例会に力を入れる事として休止した。

●定例会：5 回

2025 年	
7/29	第 1 回『精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを学ぼう・話し合おう』 話題提供：名古屋市健康福祉局健康部健康増進課精神保健担当 渋谷悠紀氏 緑保健センター保健予防課精神保健・健康づくり担当 三國修課長補佐 清水美幸精神保健福祉相談員 グループワーク 参加者 39 名
9/26	第 2 回『精神障害者地域活動支援事業地域活動支援センター I 型～居場所といわれる社会資源について～』 地域活動支援センターしかやま 見学会・グループワーク 参加者 25 名
11/18	第 3 回『地域課題について』参加者 10 名
3/5	第 4 回『日中居住連絡会・精神部会合同定例会 就労選択支援はじめの一步』 話題提供者：就労移行支援事業所 LITALICO ワークス名古屋野並 サービス管理責任者 早川博子氏 事例提供者：相談支援カモミール 加藤嘉夫氏 グループワーク 参加者 26 名
3/26	第 5 回『次年度の精神部会について』9 名

○各種実行委員会・精神部会運営委員会 8 回

(4/22. 5/27. 7/6. 8/5. 9/22. 10/15. 11/28. 2/3)

【運営委員】メンタルクリニックみなみ加藤氏 地域活動支援センターしかやま小出氏

【精神部会コアメンバー 参加事業所】

はたらく工房 緑家族会 ウイング名古屋野並センター メンタルクリニックみなみ
ゆたか希望の家相談支援事業所 相談支援事業所 me 多機能型事業所わかた 地域活動
支援センターしかやま 緑区障害者基幹相談支援センター (新) 鳴海ひまわりクリニック

【昨年度の振り返り】

- ① 第 1 回の定例会では多くの事業所や医療機関など多様な参加者があった。
- ② 第 2 回で「にも包括」における地域での居場所について考えてもらう機会となった。
- ③ 第 4 回では、日中居住連絡会と合同で定例会を企画。様々な立場から意見交換を行うことが出来た。

2025 年度 権利擁護部会 活動報告

2024 年度より活動を開始した権利擁護部会では、緑区内の全事業所を対象とした権利擁護、虐待防止について学べる場としての講演会を開催し、緑区内の事業所同士がつながる場、多くの方と出会える場としての役割を持ちながら、支援の質の向上を目指しました。

不適切支援の情報共有、虐待の予防、早期発見のための行政との会議など、見守りネットワークの構築を目指しました。

1. 定例会 参加は緑区内の部会、連絡会を問わず全事業所が対象

	日時、場所	内容
第 1 回	7 月 22 日（火） 13：30～15：30 緑区社会福祉協議会 参加者 40 名	ピアサポーター講演会 「私たちが求めるもの～支援について一緒に考えませんか」 講師 3 名の精神障害者ピアサポーターさん
第 2 回	11 月 11 日（火） 13：30～15：30 緑区役所 講堂 参加者 23 名	「成年後見制度について」 講師 ひかり弁護士法人アイリス法律事務所 安田弁護士 「地域に根ざして 20 年」 講師 認定 NPO 法人ぶらっとほーむ 理事長 富田哲夫氏
第 3 回	2 月 12 日（木） 13：30～16：00 緑区役所 講堂 参加者 57 名	基調講演 「親亡き後を安心につなぐ」 講師 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会 NPO 法人なでしこの会 理事長 田中義和氏 実践報告 「その人らしく生きること～障害のある方の権利擁護～」 報告 ゆたか希望の家 副所長 荒川知満氏 「『当事者』が支援者を受け入れるまで ～相談員から見た『当事者』とは～」 報告 緑区障害者基幹相談支援センター 山内

2. 虐待防止ネットワーク（見守りネットワーク）

10/23(2 事例)、1/15(1 事例)

障害のある方の権利を守るために、虐待防止の観点から不適切な支援についての情報を行政、基幹センター、事業所等で共有することで適切な支援に切り替えられるための検討の場を作りました。試行的な取り組みとして、相談部会の相談員の皆さんに声をかけ、行政、基幹センターでケースの共有を行い、来年度の本格実施に向けて検討しました。

3. 運営委員会

5/13（火）、10/21（火）、1/13（火）、3/10（火） いずれも 10 時～12 時

2025年(令和7年)度 障がいの重い人の支援を考える会のまとめ

南区・緑区の重症心身障がいのある大人と子どもが利用する事業所の集まりが出発点、継続的にお互いが抱えている困りごとを基に話や情報の交換をしている。また、医療的ケア児支援法が施行されて3年が経っているが、全国で数件の母による呼吸器外しなどの殺人事件がおきており、自分たちの地域でも同様に追い詰められ孤立する保護者が居るのではないかと、親が孤立しないようにするためにいろいろと意見を出し合ってきた。

本人支援については、本人中心支援についてどのように支援をしていくかも、よく話し合いに出てくる。そのため講師をお呼びして話を聞く機会を考えている。

昨年度からの課題

- ・地域での暮らしの意味や実現、本人家族の高齢化 ・地域との関わり、防災 ・本人中心支援 ・児童の卒後問題
- ・人手不足による人材確保と育成 ・障がいの重い人の活動

毎月の開催内容(基本毎月1回火曜日 13:30～15:00 オンライン)

	日程	内容
138回	4月15日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・新体制の報告と確認・・新年度新体制の紹介 親と本人の高齢化 新規訪問看護事業所さんの紹介 医療的ケア児法に伴い教育委員会にも部署ができた 今年度のテーマは福祉サービスは誰のものなのか、人材と育成
139回	5月13日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 玉木幸則氏(兵庫県相談支援ネットワーク代表理事)に来月聞いてみたいこと、地域での暮らし、本人中心支援、意思決定
140回	6月10日(火) 13時30分～15時30分 ZOOM 会議	玉木さんのお話を聞く会 誰ひとり取り残されない社会 子どもの頃の体験・優生思想 小中学校での教員との出会い 養護学校へ、その後大学 フルインクルージョン 障害者権利条約 自立生活と意思決定支援 本人中心支援 地域共生社会・協働
141回	7月8日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 玉木さんの話の振り返り・フルインクルージョン、誰でも選べる社会に 当事者性、本人中心支援
142回	8月5日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること・相談員として地域の学校での会議、学校による対応の違いあり 夏祭りにヘルパーと参加、でもみづから参加できない人も 福岡での呼吸器を外した死亡事件・資料を読みながら、繰り返されないようにどうするのか 母の疲弊、母を支える人や関係づくり、相談員か？ 学校の情報がわかりにくい 子の人権は？ 訪問看護が長時間はいる対応 医療的ケア児法も出来ているが
143回	9月9日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 医療的ケア児と家族の思いを通して考える、災害への備え 名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザー東ブロック今井氏 防災対策は、1人ひとりに何が必要か、近所との協働・共助も大切
144回	10月14日(火) 13時30分～15時	各事業所の近況・報告・困っていること 医療的ケア児等コーディネーター研修 防災を通じ地域との連携、日ごろから

	緑保健センター	の活動のお知らせや町内会長への挨拶、災害ボランティアとのつながり、地域清掃 医療的ケア児レスパイト支援事業
145回	11月11日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること・日曜日の余暇のヘルパーがみつからない 初任者研 地域の学校に通う子の親のつながりがない 母の子への思い、この子のこれからをどうにかしなければ、は今も昔も同じ
146回	12月9日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること・年齢超過の方の小児科からの転院相談支援としては始まった就労選択支援 児童の相談に入ると母が情報を持っていないと感じる 者のホームへの母の思いは、知っている人達と生活して欲しい、母たちの事業所への携わり方、これが今ないのではないかと 医療的ケア児登録フォーム
147回	1月13日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること・東海市の相談支援 小児の入所からの地域移行 者についても在宅生活の見通しは相談できる場・人、母の希望は小さい頃から通ってきた法人で暮らしも 林ともみさんのお話の報告
148回	2月10日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること ・朝のヘルパー、入浴補助具の試し 母のつながりと、母目線だけでない本人との話、特に子供で忘れがちになるヘルパーによる家族の家事は？ ミントの会さんのグループホーム
149回	3月10日(火) 13時30分～15時 ZOOM 会議	各事業所の近況・報告・困っていること 地域で暮らしていくという事、そのために母への働きかけが大切、個々のつながりを作る 本人が地域に出ていくことも大切 来年度のテーマ地域での暮らし 防災、学校との連携

19事業所 …子ども関係3 大人日中系6 居宅介護2 入所1 訪問看護1 基幹2 相談4

打ち合わせ 月1回開催…緑区基幹支援センター カモミール ひととま

まとめ

・今年度も、全国で医療的ケア児が家族によって放置や殺される事件のことを継続して考えた。福祉サービスが選べる現在に起きた事件。何もなかった40年ほど前、特に重い障害があるとどこも引き受けてくれなかった、そのことで母たちが仲間を作り事業所を作った名古屋市の障害者福祉の経過がある。6月に伺った玉木さんの話にも同じようなことがあった。それは歩ける訓練をするために入所があり、とても寂しかったこと、良き教員との出会いなどを経て、学び、地域で生活を送りながら仲間が居て、他の障がいのある人を支える側になられたこと。玉木さんはこれらの経験から、小さい頃から一緒に居ることが大切(フルインクルージョン)と障害者権利条約を基に主張されている。

こうやって支援を充足してきたということだったが、1人の母には届かなかったということが事件からわかる。母との関係作りや相談できる場の必要性、それがご本人の支援につながるからであるが、何回も話をしてきた私たちは、昔孤立感のあった母がどう乗り越えてきたのか知りたいという思いと、母に寄り添う、信頼関係を作るにはどうしたらいいかということや、児童は成長のテンポが速い為よりしっかりとした連携が学校も含めて必要なのではないかとすることを課題としてまとめた。また、卒後の暮らしの方が長く、母も歳をとるなど環境も変わっていくことで、色々な模索がある事も伝えていく必要性を感じた。ただ、何の課題を考えても、今はどこも人手不足と育成の難しさを抱えていることが大きな障壁にもなっているが。

継続する課題

- ・地域での暮らし(本人の高齢化、医療的ケア、人手不足、母の孤立、学校との連携等含む) ・防災 ・本人中心支援
- ・人手不足による人材確保と育成 ・障がいの重い人の活動

第14回 障害のある人もない人も共につくる緑区民のつどい 開催しました 「知ることにつながるみどりの輪～2025」

「障害者と区民のつどい」ブース

盛況のうちに終了

令和七年十月二十五日（土）、緑区区民まつりが開催され、緑区自立支援連絡協議会は「障害者と区民のつどい」ブースを出展しました。（当日は途中からの雨が予報されており、どれほどの方にご来場いただけるとなく、終了間際に少し雨が降った程度に留まりました。おかげさまで、非常に多くの方々にブースへ足を運んでいただくことができました。

昨年に続き3回目の参加となる今回は、「知ることにつながるみどりの輪～2025」を共通テーマに掲げました。「障害とは何か？」「それに関わる事業所はどのようなところがあるか？」など、一人でも多くの方に興味関心を持っていただく「きっかけ」となることを目指し、趣向を凝らした4つの企画（①福祉体験、②福祉マルシェ、③みどりのクリエイター展、④ステージ発表）を実施しました。



多彩な福祉体験で深まる理解

「福祉体験」では、障害の特性を疑似体験できる3つのブースを設け、多くの方に障害のある方の日常や感覚の一部を体感していただきました。

視覚障害体験

昨年に引き続き、ガイドボランティア団体「かがやき」の皆様（6名）に多大なるご協力をいただきました。アイマスクをした状態で見えないことへの不安を感じながら、狭い道や点字ブロックの上などを歩く体験、さらに今年はガイドボランティアさん発案の目が見えない状態の食事体験を行いました。参加された方からは「視覚障害の方の不安や恐怖を感じることができた。」「真つ暗な世界のこわさ、大変さを知り、サポートを少しでも出来たらいいなと思いました。」といった感想が寄せられました。ガイドボランティアの皆様からは、歩行の誘導だけでなく、点字ブロックの持つ意味や、視覚障害のある方へお声がけする際のサポート方法など、実践的な知識も丁寧に伝えていただきました。



知的障害体験

「りんご」はすぐに絵で描けても、「ちゃんと」や「ちょっと」といった抽象的な言葉を絵で表現しようとすると、人によって捉え方が異なり、伝えることが難しいことを体験。また、軍手を二重にした状態で折り紙を折る体験では、指先が思い通りに動かないもどかしさを実感していただきました。加えて、その状態（上手くできない状態）で「早くして」「なんでできないの」といった心無い言葉をかけられると、いかにモチベーションが下がるか、逆に前向きな言葉がけがいかに大切かを学びました。

精神障害体験

幻聴や感覚過敏のある方がどのように世界を感じているかを体験できる動画や、お子様にも分かりやすいアニメーション形式でパニック障害・不安障害を解説する動画を3Dで視聴していただきました。昨年度よりも視聴用3Dの台数を増やしたことで、より多くの方にじっくりと体験・学習していただくことができました。「幻聴体験で心がぞわっとした」「ヘッドホンをしている理由が分かった」など、具体的な理解につながった様子でした。

賑わいと笑顔あふれる「福祉マルシェ」

緑区内の福祉施設が心を込めて作った製品を販売するマルシェには、昨年の3団体から倍増となる6団体（障害児サークルcolorfullover、アイビス徳重、ハレルベース、ウル、クララ、ハッピースマイル24）にご参加いただきました。各ブースには、手作りのサーターアンドギーやベーグルといった食品から、本格的なレザー製品、美しい絞り製品雑貨、可愛らしい小物まで、多種多様な商品ラインナップが並びました。さらに、今年は製品販売に加えて、障害児サークルcolorfulloverさんによるブローチづくり体験、アイビス徳重さんによる招き猫の絵付け体験といったワークショップも実施され、子どもから大人まで多くの方がものづくりの楽しさに触れ、大きな賑わいを見せていました。



【出展事業所からのコメント】

「初めての参加で緊張がありましたが、終わってみるとあつという間

で、販売ブースも沢山のお客様が来られ、他事業所とも交流ができ、ぜひ来年も参加したいと思いました。」「たくさんのお客様に商品を手にとって頂き、また事業所の取り組みについても多くの方に興味を持って頂きました。利用者さんも販売を通してお客様と接し、とても充実した一日を過ごす事ができました。」「想像よりも人が多く賑わっていました。販売はたくさんの方にみていただけました。」



個性輝く「みどりのクリエイター展」

就労継続支援B型事業所やデイケアを利用されている方々による絵画や、放課後等デイサービスに通うお子さんたちが力を合わせた共同作品など、約30点の個性あふれるアート作品を展示しました。来場された方々は、一つひとつの作品に込められた力や世界観に、足を止めてじっくりと見入っていました。また今回は特別に、緑区にもゆかりがあり、今後の活躍が一層期待されている南区在住の小学6年生「けんたくん」の書も展示していただき、会場に彩りと力強さを加えてくれました。



元気いっぱい「ステージ発表」

好評だったステージ発表を、今年も実施しました。緑区内の放課後等デイサービスや児童発達支援事業所に通う児童の皆さんと職員の方々、そしてサポート役として桜花学園の学生ボランティアさんたちが参加。総勢30名以上の方々がステージに上がり、練習の成果を披露してくれました。演目は「エビカニクス」と「ジャンボリミッキー」の2曲。事業所ごとにお揃いの「シャツを身につけ、一体感のあるステージを演出。踊ることが難しい児童さんは打楽器を曲のリズムに合わせて鳴らすなど、それぞれができる形で参加し、会場全体を巻き込む元気いっぱいのパフォーマンスに、観客席からは温かい拍手と拍手が送られました。



多くの反響をいただきました

心配された天候にも恵まれ、多くの方にご来場いただいた結果、来場者アンケートでは、多くの貴重なご意見をいただきました。ご協力に心より感謝申し上げます。お寄せいただいたご意見の中から、いくつか抜粋してご紹介させていただきます。



【来場者の声（一部抜粋）】

「なかなか体験できない事ができて、ありがとうございました。」
「障害を持つ人の気持ちがよくわかった。」
「障害を持つ子供たちへの理解につながる動画を見て、とても良いきっかけになりました。」

「目の不自由な方の不安な気持ちが、よくわかった。」
「知ってるようで、障害のある方のことを理解していなかったと改めて知った。」

「点字ブロックにドキツとしたり、目隠しでの体験で、見えない時にイメージした物の実際のサイズの違いや作業のしにくさを改めて知れたこと。」

「幻聴体験で心がぞわっとびつくりするような感じがあり参考になりました。」
「パニック・不安等が分かった。」

「気づきそうで、気づかない事を知る事が出来て良かったです。」

「自分でも気になっていたり、同じようなことがあるので、一人ではないんだという安心感がありました。」

「いつも気になっていた。ヘッドホン（イヤーマフ）をしている理由が分かった。」

「どの様に感じているのか分かって、対応の参考になった。」
「不自由さを体験できました。」

「目が見えない体験が出来て、真っ暗な世界のこわさ、大変さを知り、サポートを少しでも出来たら良いなと思いました。」

温かい「ご支援に感謝します

今回の企画実施にあたり、「多くの方が障害福祉に興味関心を持つきっかけとなるように」という本企画の趣旨に、多くの事業所様よりご賛同をいただき、233,000円もの協賛金を賜りました。皆様の温かいご支援が、これらの取り組みを実現する大きな力となりました。心より感謝申し上げます。

ご来場いただいた区民の皆様、ご協力いただいたボランティアおよび関係者の皆様、そしてご協賛いただいた事業所の皆様、誠にありがとうございました。また次回も会場でお会いできることを楽しみにしております。